

第30期 (2022年7月20日(水)スタート) メンバー募集のご案内

技術経営塾

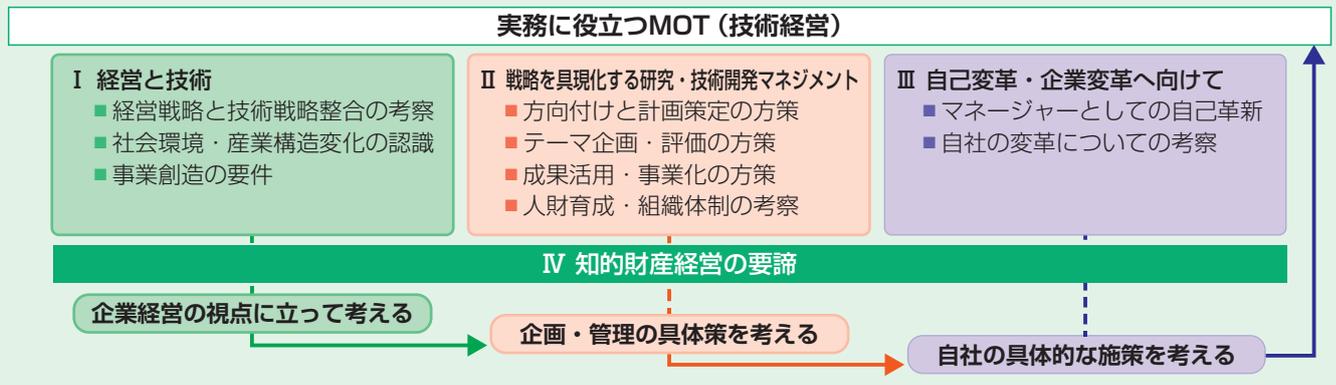
開催要領

- 対象 / 経営と技術を考え、研究・技術開発に使命感・情熱を持たれている方で積極的な意見発表と交流に参加しうる中堅幹部
- 期間 / 2022年7月～2023年6月
- 会場 / 東京都内会議室、あるいはオンライン (Zoom) ※新型コロナウイルス感染状況により随時変更します。

特徴

- ① 技術経営の経験を持つ実務家のコーディネーターの方々から技術経営の本質と実践を学ぶ
- ② 実務家のゲスト講演から様々な事例を学び、自社の成長に活かす
- ③ 合宿を2回行い、塾生同士が問題提起をし合い日頃の疑問を徹底討議する
- ④ 毎回出される宿題に対して自社の現状と課題を整理・発表し課題解決につなげる
- ⑤ 1年の最後に論文を執筆し、自身のこれからの技術経営への想いや自社への提言を残す

プログラム構成



指導陣プロフィール

コーディネーター

元 住友スリーエム株式会社 (現 スリーエムジャパン) 常務取締役 **野津 英夫 氏**

略歴

1965年京都大学工学部合成化学科卒業、住友スリーエム株式会社 (現スリーエムジャパン) 入社、接着剤の開発、ビデオテープ・コンピュータ用テープ等の記録メディアの開発に従事。1993～1996年3M社デジタルメディア研究所部長。1996～2002年技術本部統括部長。2002～2003年執行役員技術担当。2004～2007年常務取締役技術及び環境マネジメント担当



コーディネーター

信州大学 名誉教授 (元 信州大学 教授) (元 セイコーエプソン(株) 常務取締役) **赤羽 正雄 氏**

略歴

1973年早稲田大学大学院理工学研究科 (修士課程) 修了。諏訪精工舎 (現セイコーエプソン) 入社 開発部研究員。1990年電子機器事業部海外PC設計部長。1991年EPSON RESEARCH CENTER (米国カリフォルニア州サンノゼ) シニア・ディレクター。1996年エプソン販売、取締役PCオペレーション部長。1999年セイコーエプソン、取締役研究開発副本部長。2003年常務取締役研究開発副本部長。2007年6月同職を退任・退社。2007年6月信州大学教授に就任。2014年3月同大学定年退職。



コーディネーター

ヤンマーホールディングス株式会社 顧問 (一般社団法人企業研究会 研究アドバイザー) (元 日本アイ・ビー・エム(株) 取締役) (元 京セラ(株) 顧問) **廣瀬 貞夫 氏**

略歴

1972年 日本アイ・ビー・エム(株) 研究所入社、漢字プロジェクト企画。1975年 IBMサンノゼ・リサーチ赴任 日本語入力研究。1979年 IBMニューヨーク本社赴任 キングストン研究所事業分析担当。1987年 日本アイ・ビー・エム本社で全社の計画部長。1991年 営業開発統括本部副統括本部長で2年間営業経験。1992年 開発製造本部スタッフオペレーションズ統括部長として研究・開発・製造部門の人・物・金および期間計画を担当。1999年 取締役・開発製造スタッフオペレーションズ担当。2005年 日本アイ・ビー・エム(株) 同職退任。2005年 京セラ(株) に入社。事業戦略統括本部で顧問就任。2010年 京セラ(株) 顧問を退職。2014年 ヤンマーホールディングス(株) 取締役、現在に至る。【主な兼職歴】 2002年～2007年 総務省独立行政法人評価委員会委員。2004年～2010年 国立大学法人九州工業大学監事。【主な著書】 『IPD革命』 編者 (工業調査会2003年)、 『PMO構築事例・実践法』 共著 (ソフト・リサーチ・センター2007年)、 『技術経営・技術戦略と新事業創造のマネジメント』 共著 (企業研究会2004年)、 『グローバル競争を勝ち抜く技術経営戦略・提言』 共著 (企業研究会2009年)。



第1回 7月20日(水) 13:00~18:00

■ 開講挨拶

■ 基本講義「技術経営とは ~企業経営における技術・研究開発の役割~」

講師：コーディネーター 野津 英夫 氏

1. 持続的成長の達成
2. 持続的成長と研究開発の役割
3. 技術価値の事業価値への転換
4. 経営戦略と研究開発戦略の整合性

■ オリエンテーション

→ コーディネーターのご紹介、塾生の自己紹介、会合の進め方の説明

第2回 8月24日(水) 13:00~17:00

■ 基本講義「技術戦略と研究開発マネジメント」

講師：コーディネーター 廣瀬 貞夫 氏

1. 激変する経営環境と研究開発に求められる事
2. 経営戦略と技術戦略
3. イノベーションの考え方
4. 研究・技術開発のマネジメント事例
5. 外部資源の活用とオープン・イノベーションの取り組み

■ 課題発表、グループ討議

→ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、少人数のグループで発表・討議を行う

第3回 9月21日(水) 13:00~17:00

■ 基本講義「新規分野開拓の技術戦略と事業創造」

講師：コーディネーター 赤羽 正雄 氏

1. 企業成長の方向性
2. 9象限ポートフォリオ
3. 技術開発・事業創造を妨げる要因とその対応
4. 先行優位性の構築と享受

■ オリエンテーション

→ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、少人数のグループで発表・討議を行う

第4回 10月19日(水) 13:00~18:40

■ 課題発表、グループ討議

→ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、少人数のグループで発表・討議を行う

■ 基本講義「研究・技術開発の方向付けと計画化」

講師：コーディネーター 野津 英夫 氏

1. 事業成長の基本的枠組みと研究開発戦略
2. イノベーションとストレッチゴール
3. 新製品開発の要点
4. 価値創出のプロセスとマネジメント

■ 事例研究「R&D戦略策定、組織再構築と推進」

講師：R&D部門のトップマネジメントの方を予定

■ 事前討議

→ 11月の集中討議に向けて、具体的なテーマの絞り込み、集中討議に持ち寄る資料などを決めるための事前討議を行う

第6回 12月14日(水) 13:00~17:30

■ 課題発表、グループ討議

→ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、少人数のグループで発表・討議を行う

■ 基本講義「研究・技術開発テーマの企画・評価」

講師：コーディネーター 赤羽 正雄 氏

1. 素質の良いテーマ企画とは
2. 戦略との整合性、事業部との関係性からのテーマ評価
3. 獲得した競争優位性を長く保てるテーマとは
4. 事業創出力と組織の評価

■ 事例研究「研究・技術開発テーマの企画・評価」

講師：R&D企画部門マネージャーの方を予定

第5回 集中討議 11月16日(水)・17日(木)・18日(金) 各13:00~16:00

【集中討議】3日間に分けた会場&オンラインによる集中討議を行います。

- 1日目 グループ討議 ……………約3時間
- 2日目 グループ討議 ……………約3時間
- 3日目 討議内容の発表、全体討議…約3時間

【合宿討議テーマ(予定)】

1. 経営戦略と整合した研究・技術開発戦略の策定とその課題
 2. 新規分野開拓のための研究・技術開発戦略の策定とその課題
- ※上記のうち希望テーマを1つ選んでいただき、討議グループを編成させていただきます。

第7回 2023年1月18日(水) 13:00~17:30

■ 課題発表、グループ討議

→ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、少人数のグループで発表・討議を行う

■ 基本講義「研究・技術開発成果活用と新規事業開発」 講師：コーディネーター 廣瀬 貞夫 氏

1. 研究開発成果の創出と活用
2. 新規事業開発と事業化移行のマネジメント
3. 新規事業の事業性評価とビジネスモデルの策定
4. 新規事業とリスクマネジメント

■ 事例研究「研究・技術開発成果活用と新規事業開発」 講師：新規事業開発担当者の方を予定

第8回 2月15日(水) 13:00~17:30

■ 課題発表、グループ討議

→ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、少人数のグループで発表・討議を行う

■ 基本講義「R&D部門の人財マネジメントと組織の活性化」

講師：コーディネーター 廣瀬 貞夫 氏

1. 技術経営に求められる人財とは
2. R&D技術人財マネジメントの実際
3. イノベーションを創出する人財と組織風土
4. イノベーションに欠かせないダイバーシティ・マネジメント

■ 事例研究「R&D部門の人財マネジメントと組織の活性化」 講師：R&D部門マネージャーの方を予定

第9回 3月15日(水) 13:00~18:40

■ 基本講義「イノベーションの創出とマネジメント」 講師：コーディネーター 野津 英夫 氏

1. イノベーションをどう理解するか
2. イノベーションのDNAと持続の必須要件
3. イノベーションを育む風土と仕組み：事例を踏まえて
4. 3つの能力-価値創出能力、自己変革能力、人材活用力

■ 課題発表、グループ討議

■ 事前討議

→ 4月の集中討議に向けて、具体的なテーマの絞り込み、集中討議に持ち寄る資料などを決めるための事前討議を行う

第10回 集中討議 4月12日(水)・13日(木)・14日(金) 各13:00~16:00

【集中討議】3日間に分けた会場&オンラインによる集中討議を行います。

- 1日目 グループ討議 ……………約3時間
- 2日目 グループ討議 ……………約3時間
- 3日目 討議内容の発表、全体討議…約3時間

【合宿討議テーマ(予定)】

1. 研究・技術開発テーマの企画・立案と評価
 2. 研究・技術開発の成果活用と新規事業開発
 3. 研究・技術開発の人財マネジメントと組織活性化
- ※上記のうち希望テーマを1つ選んでいただき、討議グループを編成させていただきます。

第11回 5月17日(水) 13:00~17:00

■ 基本講義「知的財産経営と研究開発における知的財産戦略」

講師：知的財産部門ご責任者の方を予定

■ 課題発表、グループ討議

最終回 6月21日(水) 13:00~17:00

■ 論文発表「技術経営推進への提言とその具体策」(仮題)

(第29期テーマ) 経営環境変化をリードし、イノベーションを創出する技術経営のあり方

発表者：優秀論文賞受賞者3名程度

※1年間の技術経営塾における各講義の内容や、メンバー間の意見交流から得られた成果を基に5月に修了論文を執筆。指導陣の選定により優秀論文賞受賞者は最終会合で論文内容の報告を行う。また、全員分の論文を論文集としてまとめ、配布する。

■ 総 評

→指導陣が修了論文に対しての講評と1年間を通しての総評を行う

■ 優秀論文賞授賞式、修了証書授与式



◎課題発表・グループ討議では3つのグループで進行し、3人のコーディネーターが各グループに1人ずつ入って指導します。前回の基本講義の内容をベースに毎回宿題が出され、自社の課題を発表してグループ内で解決策を模索します。



◎1年間で学んでいただいた内容をベースに自社への提言として修了論文を執筆。論文集として編集・製本し、全塾生およびご派遣担当者にお渡しします。

第30期 技術経営塾 開催にあたって

コーディネーター

野津 英夫 氏からのメッセージ

技術経営の本質は「**技術価値の事業価値への転換**」です。そのためには技術開発から事業化に至る複雑で多様なプロセスをロジカルに理解し、新しい事業価値の創造を目指し勇気をもって自らチャレンジし、リーダーシップを発揮していかねばなりません。当塾では技術経営の基本となる理論と手法を学んでいただくと共に、実践に不可欠な関連事項を実際に経験した生々しい失敗事例も交えながら教えていきます。

「人を管理するマネジメント」ではなく、厳しい競争環境の中で周りを巻き込みながら自ら変わり、変革を成し遂げる「**行動するマネジメント**」を当塾で学んでいただき、自社の競争力強化と持続的成長に資していただけることを願っています。

コーディネーター

赤羽 正雄 氏からのメッセージ

研究開発から事業化までのプロセスは不確実性が高く且つ長期にわたるため、実際に研究開発を完遂し、経済価値に結びつけるには様々な困難を伴います。この課題をクリアするためには、経営トップ、上司や部下、同僚、関係部門など様々な人を巻き込み、納得と共感を得、更には協力を受けながら進めていかなくてはなりません。そこでもっとも重要なことは、技術者自らが「**技術経営に関する理論武装**」をすることです。

当塾では、経営の話からはじまり、研究開発や事業化、知財や組織に至るまで様々なテーマを扱っていきます。1年を終えるころには、それぞれのテーマに対して自分なりの考えを持って理論形成をし、周りを巻き込む力をつけていただきたいと思います。それが、様々な困難を乗り越えるバックグラウンドになるはずです。

コーディネーター

廣瀬 貞夫 氏からのメッセージ

企業が競争力を持ち、持続的に成長していくためには「**自社を取り巻く環境変化に如何に対応するのか**」ということを先取りしながら考えなくてはなりません。そのためには、技術経営の本質を理解し、実際に起こっている課題を解決しながら自分なりの対応策を創り上げていく必要があります。

特に、ミドルマネジメントの役割は大きく、将来を担うミドルマネジメントが早くから技術経営を学び、技術経営の視点から自部門の課題に取り組むことは企業の成長につながります。

当塾では課題発表や合宿などで現在悩んでいる自社・自身の課題を出し合う機会でもあり、是非、積極的に活用していただき課題解決に役立ててほしいと思います。

第28期～29期 参加者実績

会社名	所属・役職名
アルプスアルパイン(株)	先行開発部
出光興産(株)	生産技術センター プロセス技術室 技術1グループ
出光興産(株)	生産技術センター プロセス技術室 技術2グループ
出光興産(株)	エンジニアリング室設備技術グループ
出光興産(株)	製造技術開発室担当マネージャー
(株)NTKセラテック	技術開発本部 第二技術開発部 部長
花王(株)	開発研究第1セクター ヘルスケア研1室 室長
(株)カネカ	太陽電池・薄膜研究所 基幹研究員
キューピー(株)	研究開発本部 食創造研究所 調理・調味料開発部 チームリーダー
(株)クレハ	中央研究所電池材料研究室
(株)クレハ	機能材加工研究室 主任
(株)クレハ	樹脂加工研究所 包装材料加工研究室
(株)神戸製鋼所	開発企画部 担当課長
(株)神戸製鋼所	開発企画部 担当次長
(株)神戸製鋼所	技術開発本部 企画管理部 技術企画室 企画担当課長
DIC(株)	総合研究所 R&D技術戦略グループ
ナミックス(株)	技術開発本部 本部長補佐・シニアグループマネージャー
(株)ニチレイ	技術戦略企画部 基盤研究グループ アシスタントリーダー
(株)日清製粉グループ本社	R&D・品質保証本部基礎研究所穀粉加工研究室 室長
(株)日清製粉グループ本社	技術本部生産技術研究所デジタル技術研究室 室長
日清製粉(株)	研究開発本部 商品開発センター 所長代理
日清製粉(株)	技術開発本部新製品開発チーム チームリーダー
日清ファルマ(株)	ヘルスケア事業部 マネージャー
(株)日清製粉ウェルナ	加工食品事業部第三部 開発グループ グループリーダー

会社名	所属・役職名
(株)日清製粉ウェルナ	プロダクトマネジメント統括部第一部開発グループ グループリーダー
日本曹達(株)	研究開発本部 研究管理部 部長
日本たばこ産業(株)	R&Dグループ 製品開発センター 主任
日本たばこ産業(株)	製品開発センター 主任技師
日本特殊陶業(株)	センサ事業部 技術本部 開発設計部 副主管
日本特殊陶業(株)	アドバンスセラミックカンパニー 技術部 技術1課 課長
バンドー化学(株)	高機能エラストマー 製品事業部 技術部 精密部品開発グループ グループ長
バンドー化学(株)	新事業推進センター 技術部 電子資材第二技術グループ グループ長
日立造船(株)	事業企画・技術開発本部 技術研究所 知能機械研究センター 機械グループ長
日立造船(株)	開発本部 戦略企画部 担当部長
藤森工業(株)	研究所 パッケージ開発グループリーダー代理
藤森工業(株)	研究所 ライフサイエンス開発部 機能性容器開発グループグループリーダー
(株)ブリヂストン	革新材料基盤研究部 ポリマー研究ユニットリーダー
(株)ブリヂストン	PSタイヤ開発第3部PSタイヤ設計第1ユニット ユニットリーダー
ホーユー(株)	総合研究所 基盤技術研究室 基礎研究1課 課長代理
ホーユー(株)	総合研究所 研究企画室 知財管理課 課長代理
ホーユー(株)	総合研究所 先端技術研究室 課長代理
ホーユー(株)	総合研究所 カスタマーコミュニケーション室 調査開発課 課長代理
ライオン(株)	研究開発本部 先進解析科学研究所 副主任研究員 オーブンイノベーションコーディネーター
(株)リコー	イノベーション本部 システム研究センター イメージアナリシス研究室 室長
(株)リコー	イノベーション本部 戦略統括センター 戦略推進室 戦略・設計グループシニアスペシャリスト
(株)リコー	先端技術研究所IDPS 第一研究室第二研究グループ
(株)ロッテ	中央研究所 アイス研究部 アイス研究二課 課長
(株)ロッテ	中央研究所 チューイング研究部部長

参加要領

【事業コード：220040】

参加費（1名につき）

正会員	396,000円 (本体価格360,000円)	一般	434,500円 (本体価格395,000円)
------------	-----------------------------------	-----------	-----------------------------------

※分割・次年度支払い等可能です。お気軽にご相談ください。

申込方法

当会ホームページよりお申込みいただけます

企業研究会 技術経営塾



検索

お申し込み・お問い合わせ 一般社団法人 **企業研究会** 第1事業グループ 担当：薄井

TEL : 080-1393-5599 (薄井直通) E-mail : usui@bri.or.jp

〒110-0015 東京都台東区東上野1丁目13-7 ハナブサビル TEL 03-5834-3920 (代表)